

クラブや市体育協会がビジョンを共有し、協働で活動

長岡京市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(京都府)

1. ネットワーク創りの経緯

～良きライバルから良き仲間へのメリットを求めて!～

長岡京市でのクラブ創りは、平成12年から日本体育協会のモデル指定を受けた長七小学校区で始まり、その後、追従するように長四・長九校区で取り組まれ、平成19年には市内に3クラブとなりました。

従来から学校開放が盛んに行われ、校区対抗の大会も開催されていた関係で小学校区単位の連帯感は根強いものがありました。長七校区に後れをとった長四・長九校区では、「長七校区で設立したのなら、うちの校区でも…」と、熱いライバル心による要因が大きく関与しました。

校区間の競争意識が高く、連携や協働の比重が低かったこともあって、他クラブの活動が「風の便り、また聞き…」などの声が寄せられ、大きな課題となりました。解決策は「直接会って情報を得ること」という単純なことでしたが、その背中を押すのが市体育協会の果たす役割となりました。解決策を示しネットワークの必要性など「良き仲間へのメリット」を探ったことが、協議会発足のきっかけとなりました。

2. ネットワークの組織体制と運営方法

協議会は、設立した3クラブを中心に創設準備中の2校区も加わり構成しています。会長1名、副会長2名、委員3名で役員会を組織し、行政や市体育協会、近隣の府立乙訓高校からオブザーバーとして同席しています。

役員会は必要に応じて開催し、①情報交換することでクラブがより充実発展すること、②将来の中学校区エリアへの礎を築くこと、③クラブ創りのノウハウを未創設校区に伝授することを目標にしながら、事業や予算の企画について協議を重ねています。

事務局は現在、市体育協会事務局に置いていますが、いずれはクラブの持ち回りで担当することになっています。

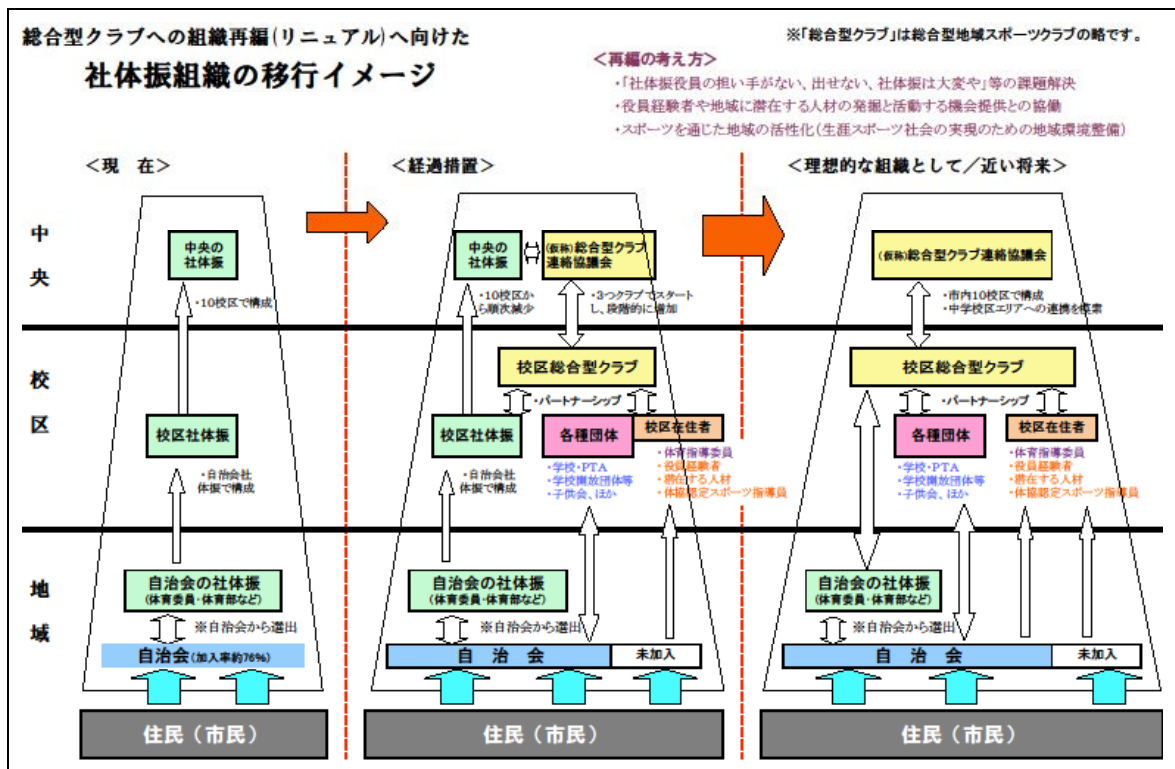
- 総合型長七みんなのスポーツクラブ【長七校区】＝設立7年目
- フォー遊クラブ【長四校区】＝設立3年目
- ふるさとスポーツクラブ【長九校区】＝設立3年目
 - 長五小学校区設立準備委員会
 - 長法寺小学校区設立準備委員会
 - ※府立乙訓高校施設開放型設立準備委員会

3. 市体育協会が意見を集約し、中長期ビジョン「基本方針」を示す

市体育協会では、長七校区でのクラブ創りが始まった平成 12 年に、特別委員会と少人数によるワーキンググループを設けてビジョンづくりを始めました。

特に、自治会が選出母体となっている社会体育振興会の役員選出や事業、財源など、さまざまな問題点を整理し、解決策を話し合っていくうちに進むべき姿が見えてきました。会議は延べ 40 回となりました。話し合ってきたことを紙面に落とし、平成 20 年 3 月にビジョンを「基本方針」として示しました。

基本方針の内容は、①小学校区でクラブ創りを進めながら将来は中学校区程度のエリアへ、②校区社会体育振興会を総合型クラブへリニューアル（下記イメージ図）、③市クラブ連絡協議会の組織化などを盛り込み、イメージ図なども示しています。



4. 実際の活動と主な成果

○活動内容と活動を通じた主な成果

各クラブを巡回する情報交換会では、特徴ある活動や予算の使い方などの説明を受け、質疑によって認識を高め、情報を交換し合っています。

関係者懇談会では、創設準備中の準備委員や市体育指導委員、市体育協会認定スポーツ指導員らも一堂に会し、人的交流を深めながらノウハウが伝授されています。

また、市民スポーツフェスティバルに相乗りする「総合型クラブフェスティバル」というイベントを3会場で一斉開催し、校区の枠を超えた参加など、多くの住民へのクラブの啓発に努めています。



○違う側面からの成果（参加したスタッフの声）

▽ネットワークは大事や！「違いがあるから面白い」

情報交換会では、運営方法の違いで感情的な意見も出ましたが、翌日には「それなりに想いを持って取り組んでいるんやな」「一生懸命さの裏返しなんやな」「違いがあるから面白い」などの声や、「参加料の徴収に対する不安感は無料に慣れてきた役員目線かも…」などの声も聞かれ、「ネットワークは大事なことや」という機運が高まってきました。

▽知り合いが増えた！「人間関係が今まで以上に深まった」

そのほか、「他クラブの人たちの名前と顔が一致するようになった」「気軽に声かけられるようになった」「他人の意見でアイデアが発見できた」「他の小学校に初めて行った」などの声もありました。

▽クラブ間の連携も深まった！「困っていたことが少しずつ解決できた」

関係ができたことで、「用具の貸し借りができるようになった」「いい事はマネしようと思った」「予算の使い方も参考になった」「悩みごとを他クラブの人に話したことで、困っていることが少しずつ解決できた」などの声も寄せられました。

5. 今後の方向性、課題など

「直接会って情報を得ること」という単純なきっかけによって協議会が発足し、いかにクラブを発展させていくかなど、共通の課題解決へ向けて動き出しました。

人材育成や財源問題、住民啓発など、問題や課題は山積しています。人は育てなくては確保できませんし、公的補助金も削減の一途をたどっています。また、払った会費が何に使われるかを示し負担を求めなくてはなりません。一方では、住民への啓発も必要で、閉ざされたクラブにならないためにもネットワークは大切です。

これらは、地域の実情であり難しい課題ですが、理想と現実とのギャップを、ネットワークを通じてみんなで考え、行動していくことで新たな展開につながると思います。

「木を見て森を見ず」から「森を見て木を見る」クラブ運営、クラブが困っていることを解決するネットワーク、さらには府県の枠を超えたネットワークなど、クラブ設立後のステップとして必要不可欠であります。

いろいろなクラブの人たちと話をすることで、これまで持ち合わせていなかった斬新なアイデアや新たな発見などを、末永く続いていくクラブ運営に取り入れ、発展していくことを願いながら取り組んでいきます。

（立野誠次 財団法人長岡京市体育協会事務局長）

【長岡京市及び協議会等の概要】

○市の人口：約 79,000 人

○市の特徴：京都盆地の南西部に位置し、大阪駅まで約 30 分、京都駅まで約 10 分という交通の便に恵まれています。人口増加によって学校建設に追われた結果、公共スポーツ施設の整備が遅れ、学校開放が活発に行われてきました。社会体育振興会や子供会などの目的別組織も小学校区ごとに組織化されています。小学校 10 校、中学校 4 校。

○市のスポーツ組織：校区社会体育振興会、種目別競技団体、学校体育連盟、スポーツ少年団の集合体・統括団体として市体育協会があり「行政ではできないさまざまな活動」を行っています。

○予算規模：協議会の 21 年度年間予算は 35 万円

○連絡先：財団法人長岡京市体育協会事務局内（西山公園体育館内）

TEL 075-954-8011 Email: taikyo@sports-nagaokakyo.or.jp